

平成 19年 2月

遠藤正博 学位論文審査要旨

主 査 清 水 英 治
副主査 中 島 健 二
同 岸 本 拓 治

主論文

睡眠時無呼吸症候群における呼吸運動の相関次元を用いた適正持続気道陽圧装置圧決定法の開発

(著者：遠藤正博)

平成19年3月 米子医学雑誌56巻 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は睡眠時無呼吸症候群の治療に用いられるCPAP装置の最適圧を決定するために、日中の呼吸運動から相関次元を計測しCPAP装置圧との関係を検討したものである。その結果、相関次元に基づく装置圧決定が可能であり、その圧でのCPAPにより無呼吸低呼吸指数、睡眠構築、覚醒指数、酸素飽和度、健康関連QOLの改善が明らかとなった。本論文の内容は、呼吸生理学の分野で、呼吸運動相関次元計測が睡眠時無呼吸症候群の治療効果を改善する可能性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。